

CASBEE® 広島

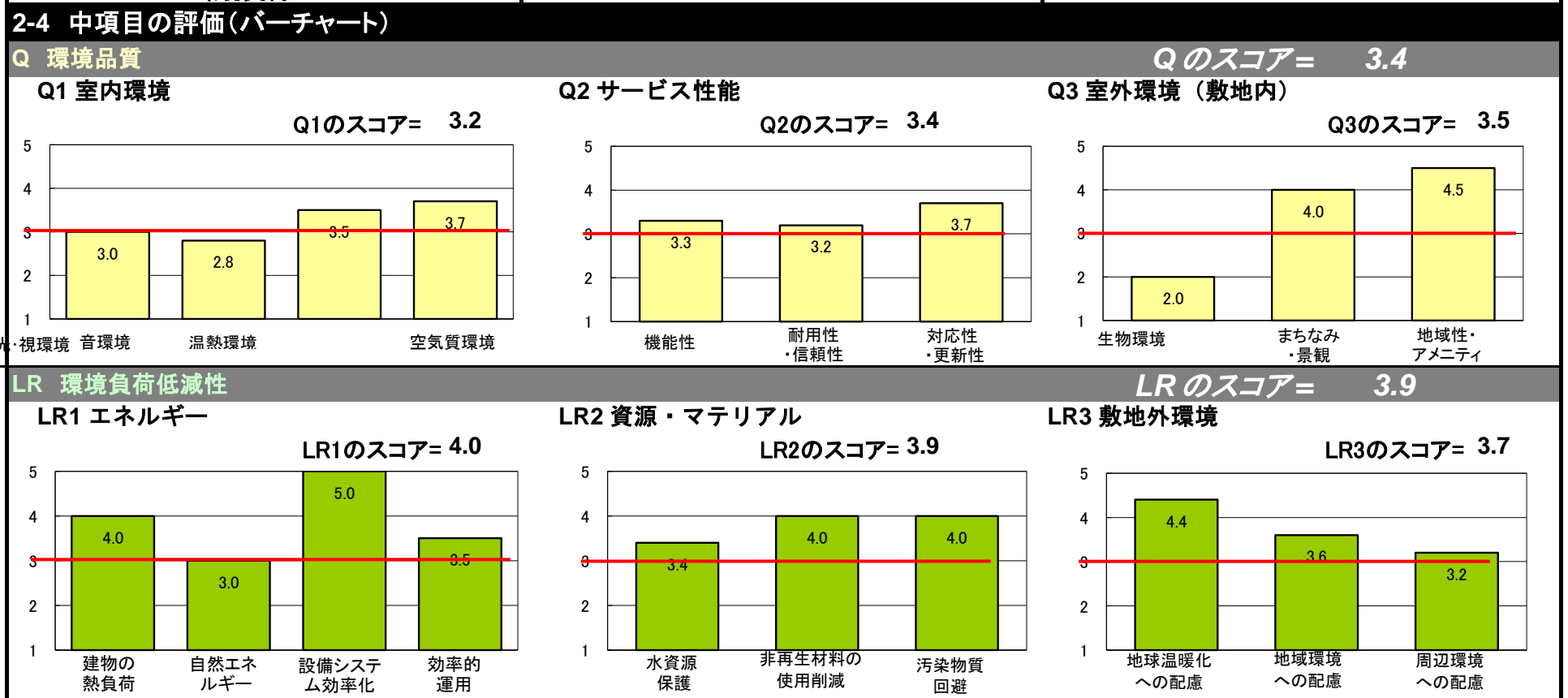
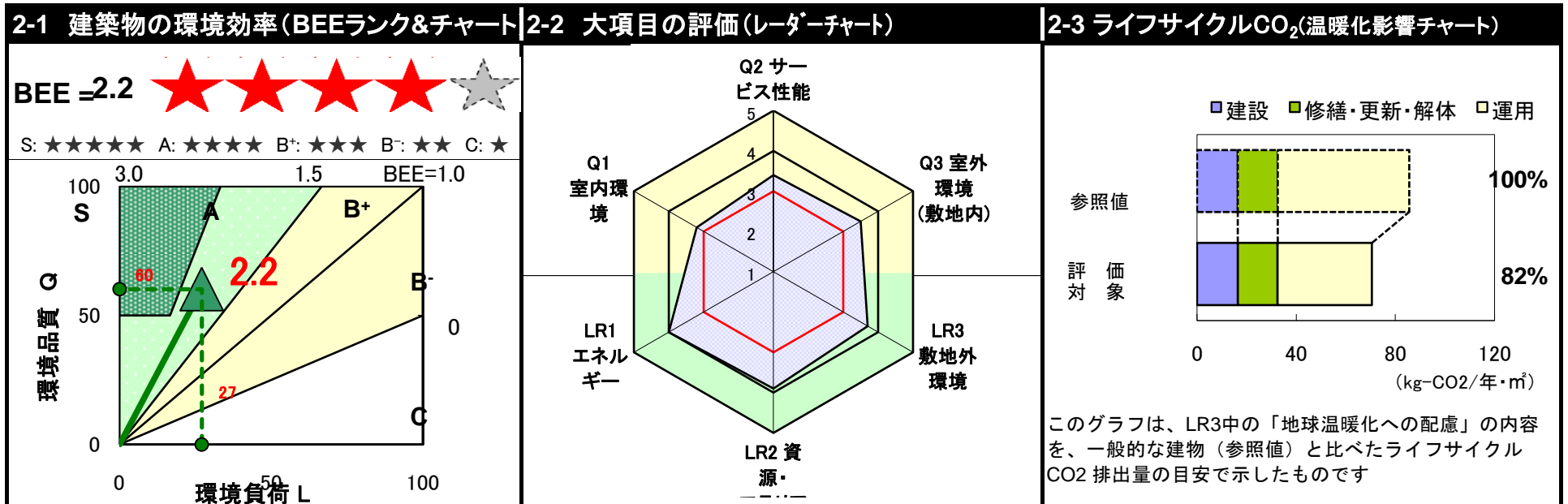
(2010年ver.1)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE広島 2009年版

■ベース評価ソフト: CASBEE-Ncb_2008(v.3.2)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	トヨタカローラ広島・ネットヨタ中国新本社	階数	地上6F
建設地	広島市西区庚午中一丁目18-10	構造	S造
用途地域	近隣商業地域、第一種住居地域、準防火地域	平均居住人員	151人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	2,800時間/年
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2014年11月 予定	評価の実施日	2013年12月4日
敷地面積	3,195 m ²	作成者	鹿島建設株式会社 梅崎将志
建築面積	2,436 m ²	確認日	2013年12月4日
延床面積	10,268 m ²	確認者	鹿島建設株式会社 平林一浩



3 広島市の重点項目

重点項目の総平均スコア = 3.8

「地球温暖化対策」の推進	「ヒートアイランド対策」の推進	「長寿命化対策」の推進
スコア = 4.1	スコア = 3.1	スコア = 3.4
設計の計画上特段に配慮した事項 外壁にサンドイッチパネル、開口部に複層ガラスを採用することにより、断熱性の確保。// 外壁の断熱性能確保および全熱交換器の採用により、空調用消費電力が低減。 ・LED照明器具の採用、人感センサーによる不在時消灯の徹底により照明用消費電力が低減。/ 竣工時に運用と管理及び長期修繕計画を提出。/ CFT柱や大梁水平ハンチの採用による、構造部材断面を小さくすることに配慮。内装材における、エコマーク製品の積極的な採用。/ 一般的な建物を上回らないライフサイクルCO ₂ 排出率。	設計の計画上特段に配慮した事項 1階の多くを、ピロティとして計画。道路境界側を積極的に緑化。/ 附置義務台数を大きく上回る駐車台数を確保。敷地への自動車出入口を複数設置。	設計の計画上特段に配慮した事項 外装材、内装材ともに、耐久性の高いものを採用。/ 構造部材を痛めることなく、各種設備の更新が可能。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される